

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

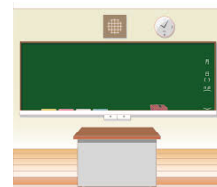
子どもの学びを支えるユニバーサルデザインの視点

昨年12月、文部科学省より小・中学校で学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合が8.8%と発表されました。しかし、学校では、8.8%の児童生徒も含めて、一人一人がよりよく学ぶことのできる授業づくりが求められています。より多くの児童生徒が「分かった・できた」を実感できるユニバーサルデザインの視点を取り入れた教育環境・授業づくりのポイントを紹介します。

1 教室環境のユニバーサルデザイン

(1) 視覚的な刺激を減らす（必要な情報を必要なだけ掲示）

- 黒板周りの掲示物を少なくする。(校内で統一するものと学級独自のものを検討する)
- 学級文庫や棚にカーテンを付ける。
- 教卓等に余計な物を置かない。
- 統一感のある色づかいで統一する。



(2) 聴覚的な刺激を減らす（静けさは最大の支援）

- 教室内外の音を徹底的に減らす。(ドアや間仕切り等の活用)
- 「ひそひそモード」「サイレントモード」で話すことができる。
- 教師が雑音にならない。(言葉を減らす・非言語を使う・怒鳴らない)
- 静かになったことを確認してから話し始める。

(3) その他

- 整理整頓された教室環境を徹底する。(学習環境の乱れは子どもの心の乱れにつながる。人はいつも見ているものに心が似てくる)
- 一日のスケジュールを示す。(週・月予定は黒板付近以外の場所に掲示する)
- プリント類等の整理の仕方を指導する。
- 持ち物の置き場を明示する。



2 授業のユニバーサルデザイン

(1) 導入（前時の内容と子どもの知っていることを結び付ける）

- 時間通りに（チャイムで）授業を開始する。
- 全員が参加できる内容を取り入れて、参加スイッチをONにする。
- 授業に見通しがもてるように、めあて・課題・流れを示す（注意が逸れても板書を見れば分かるようにするとともに、みんなでゴールを確認する）

(2) 展開（本時の山場を意識して取り組む）

- 授業構成を教科ごとにパターン化する。(見通しがもてて、気持ちや行動が安定する)
- 1コマ10分～15分の学習内容を組み合わせる。(集中力が持続する)
- 多様な学習形態を用意する。(全体、個人、グループ、ペア)
- 多様な学習活動を組み合わせる。(静的・動的活動のバランス、聞く時間を減らす)
- 思考を促す発問や指示で考えるポイントを明確にする。(視覚情報を活用する)
- できる範囲で個々の違いに配慮する。(課題の内容や量を調整したり、書字に時間のかかる子どもには板書計画やワークシート、ICTを活用したりする)
- ペンを片手に机間指導を行い、個々の理解度を把握する。(順番を決めて個別の配慮をする)

- (3) 終末（授業の始めに提示したためあてを基に、振り返りを行い、まとめにつなげる）
- 一時一作業を心掛ける。（同時処理が苦手な子どものために、聞く作業と書く作業を区別する）
 - 一目で授業の流れが分かる構造化された板書を心掛ける。（チョークの色を変えたり、線を引いたりして、少ない量で大切な部分を強調する）
 - 多感覚を活用してまとめをする。（分かったことを「見て・聞いて・触って・考えて・声に出して」表現してできたへ結び付ける。）
 - 一番大切なことを子どもが気づき、発表する。（本時のゴールの達成が分かるように子どもと評価規準を共有する）
 - 教師がよきモデルとなる。（授業はチャイムで終わってそろえる）



(4) 子どもを引き付ける話し方

- 全員が理解できるように、注意を促してから簡潔に話す。「これから大事なことを話します」
- あいまいな言葉を避け、具体的に話す。「もう少し」→「あと2分で、あと2問で」
- 頑張りを認め、肯定的でポジティブな表現で話す。「～できないと～できない」→「これが終わったら給食です」
- 写真やイラスト等の視覚的な情報や具体物を提供する。（聴覚的短期記憶を補える）
- 一文で一つの動作ができる指示をする。「教科書の24ページの3番をやります」→「24ページを開きます」「問題3番です」（メリハリがあって聞き取りやすい）
- どの子どもも答えられる問題（発問）を入れるとともに、ユーモアもプラスする。
- 言葉のイメージ力を生かす。「忍者のように歩きましょう」
- 語調に変化をつける。（声の大きさ、抑揚、スピード、間に配慮する）
- 最後はほめて終わる。（注意や叱責、尖った口調が多いととげとげしい雰囲気になる）
- 非言語メッセージも使う。（アイコンタクトやOKサインが子どもの心を揺さぶる）

ユニバーサルデザインの視点による授業づくりは、個別の配慮が必要な子どもにとっては「ないと困る支援」であり、全ての子どもたちにとっては「あると便利な支援」です。新学期を迎え、全ての子どもの主体的な学びを支える授業づくりを実現するために、自校の「授業スタンダード」を作成して、全職員で共通理解を図りましょう。



とれたて直送便



【通級担当教員による巡回指導がスタート！】

今年度から能代第二中学校と湖北小学校の通級指導教室において、これまでの自校通級（校内で通級すること）と他校通級（他の学校へ通級すること）に加え、巡回通級（通級担当者が子どもが在籍する学校を訪問して指導すること）をスタートします。本人及び保護者の負担軽減のため、自校通級と巡回通級の拡充が期待されます。お問い合わせは、能代市教育委員会、三種町教育委員会、各学校へ連絡をしてください。



【ゴールを目指してスタート！】



| | |
|---------------------|-------------|
| 子ども・保護者、担任、関係者の願い | ⇒ 燃料 |
| 学級担任・教科担任 | ⇒ 運転手 |
| 各種計画（年間計画 個別の指導計画等） | ⇒ カーナビゲーション |
| 園・校内支援委員会（支援体制の検討等） | ⇒ エンジン |
| 特別支援教育コーディネーター | ⇒ ？ |

担任が子どもや保護者の願いを乗せて目的地にゴールするためには、特別支援教育コーディネーターが整備士・添乗員として、定期的に園・校内支援体制を点検しながら、担任を道案内したり、各種計画の改善を図ったりします。もし道に迷いそうになったときは、地域の関係機関と連携して、マイナーチェンジや進路変更をしましょう。